

第7回宮城県産業振興審議会商工業部会

日 時 平成25年9月4日(水)
午前10時30分から正午まで
場 所 宮城県庁行政庁舎18階 1802会議室

第7回宮城県産業振興審議会商工業部会 議事録

日 時 平成 25 年 9 月 4 日(水)10:30 ~ 12:00

場 所 宮城県庁行政庁舎 18 階 1802 会議室

出席者 審議会委員(部会長)堀切川一男 東北大学大学院工学研究科教授
審議会委員 橘 眞紀子 有限会社岩沼屋ホテル専務取締役
審議会委員 畑中 得實 キョーユ一株式会社代表取締役社長
審議会委員 平賀 ノブ 有限会社ひらが代表取締役, 仙台商工会議所女性会会長
専門委員 志賀 秀一 株式会社東北地域環境研究室代表, みやぎ観光創造県民会議座長
県 犬飼 章 経済商工観光部長
西村 晃一 経済商工観光部次長
宮原 光穂 経済商工観光部次長
志子田 伸一 観光課長
小野寺 彰英 富県宮城推進室室長補佐

欠席 審議会委員 大志田 典明 プレイントラストアンドカンパニー株式会社代表取締役社長
審議会委員 成田 由加里 成田由加里公認会計士事務所代表

1 開会

司会

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

審議会を開催する前に事務局よりお知らせいたします。夏季は、クールビズでネクタイを外すなどの軽装で出席しておりますことをご了承願います。

次に、産業振興審議会条例の規定に基づく会議の定足数は部会に属する委員及び専門委員の2分の1以上ですが、本日はこの要件を満たしていることから、部会が成立しますことを御報告いたします。

また、産業振興審議会は平成12年度の第1回の会議の際に「公開する」と決定しておりますので、当部会も公開として進めさせていただきます。

それでは、ただいまから第7回宮城県産業振興審議会商工業部会を開催いたします。

開会にあたり、経済商工観光部長の犬飼より御挨拶申し上げます。

2 あいさつ

犬飼部長

皆様おはようございます。

7月31日に産業振興審議会を開催いたしまして、素案をお示しして、皆様から大変貴重な、ユニークな、厳しい御指摘を頂戴したところでございます。その後8月23日には、みやぎ観光創造県民会議の皆様からも御意見を頂戴しております。本日は、それらをもとに案を提示させていただきますが、今回DCを行いまして、震災復興支援への感謝の気持ちを込めたおもてなしの心を定着させながら、これまでの地域ごとに特色ある取組を進めてまいりましたが、震災を契機にいち早く回復した内陸部と、壊滅的な被害を受けて未だ

復旧・復興の途上にある沿岸部に対応した観光戦略の策定が必要だと考えております。

そのためには、沿岸被災地の復興まちづくりと連動した、失われた観光資源の再生・創出、被災地を補完する内陸部との連携、域内流動の活発化、それから外国人観光客の回復、こういうものに積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますとともに、今般仙台空港の民営化が計画されておりますが、関空発のLCCの就航、これらを契機に、中部以西からの観光客の誘致のために、東北が一体となった広域観光の充実などに取り組んでいきたいと考えています。そして実際に定住人口が減っている中で、交流人口の拡大によって地域経済の活性化につながる観光消費をしていただきたいと考えております。

本日は、商工業部会の委員の皆様におかれましては、本県の観光が再生を遂げ、地域経済と震災復興をけん引する役割を果たせますよう、それぞれのお立場から多様な観点での御意見を賜るようお願いいたしまして、簡単ではございますが、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。

3 議題

司会

この商工業部会では、産業振興審議会の6名の委員に加えて、新たに1名の方に専門委員として参加いただき、計7名で審議いただくことになっております。

専門委員の方へ委嘱状を交付いたします。志賀専門委員、恐れ入りますが、その場に御起立願います。

(犬飼部長から志賀委員へ委嘱状を交付)

今年度はじめての部会ですので、委員の皆様と、同席しております県の職員をお手元の出席者名簿により御紹介させていただきます。

はじめに、産業振興審議会商工業部会の委員を御紹介いたします。

東北大学大学院工学研究科教授の堀切川一男部会長です。

有限会社岩沼屋ホテル専務取締役の橘眞紀子委員です。

キョーユー株式会社代表取締役社長の畑中得實委員です。

有限会社ひらが代表取締役、仙台商工会議所女性会会長の平賀ノブ委員です。

なお、本日、ブレイントラストアンドカンパニー株式会社代表取締役社長の志賀典明委員、成田由加里公認会計士事務所代表の成田由加里委員は所用により欠席でございます。

続きまして、専門委員を御紹介いたします。

株式会社東北地域環境研究室代表、みやぎ観光創造県民会議座長の志賀秀一専門委員です。

続きまして、県の職員を紹介いたします。

先ほど御挨拶申し上げました経済商工観光部長の犬飼章です。

経済商工観光部次長の西村晃一です。

同じく経済商工観光部次長の宮原光穂です。

観光課長の志子田伸一です。

富県宮城推進室室長補佐の小野寺彰英です。以上でございます。

資料の確認をいたします。

本日お手元に資料として、資料1の「みやぎ観光創造県民条例」に基づく「観光振興に関する基本的な計画」(第3期みやぎ観光戦略プラン)中間案」と、資料2の概要版、資料3の「宮城県産業振興審議会商工業部会の今後のスケジュール」。参考資料の1といたしまして、「産業振興審議会条例」、参考資料の2といたしまして、「第3期みやぎ観光戦略プラン委員意見への対応方針」の5つを配布しております。

資料の方はよろしいでしょうか。それでは議事に入ります。会議は、産業振興審議会条例の規定に基づき、部会長が議長となって議事を進めることとなっておりますので、ここからは堀切川部会長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

堀切川部会長

第2期の観光戦略プランで我々の部会で審議させていただいて、夢のある案を出したつもりでしたが、直後に震災が発生して、県の方々も大変だったと思います。ある意味非常に悔しい思いをされたと思いますので、そのリベンジも兼ねて、この第3期みやぎ観光戦略プランができてきたのだと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは議事に入ります。議題(1)の「第3期みやぎ観光戦略プランの策定」につきまして、事務局から説明願います。

志子田課長

観光課長の志子田でございます。よろしくお願いいたします。

「第3期みやぎ観光戦略プラン」の中間案について説明させていただきます。概ね15分くらいの時間を頂戴しまして、説明させていただきます。

プランについては、お手元に資料を3種類御用意させていただいております。

右上に資料1と書いてあるA4版の厚めの資料が事務局作成の中間案の本編でございます。右上に資料2とあるカラー刷りのA3版の資料が、中間案の概要版でございます。もう一つ、A4横で、右上に参考資料2と書かれている資料がございますが、これにつきましては、7月に行われた宮城県産業振興審議会の委員の皆様のお意見と手前どもで考えました対応方針等々でございます。1ページから7ページが7月の産業振興審議会でございます。それから8ページ以降が8月のみやぎ観光創造県民会議での委員の皆様の主な御意見を中間案にどのように反映したのかを整理した資料でございます。

中間案の説明の前に簡単に御説明いたしますと、例えば、参考資料2の1ページの上から2つ目の欄の岡田委員の「観光が産業全体にどういう経済効果や雇用があったのかなどを分析的に総括する必要がある」という御意見に対しては、資料1の中間案本編20ページをお開きいただきたいと思います。20ページに図式化して、平成24年度の観光消費額の一次産業から三次産業までへの経済効果や雇用効果を分析して整理させていただいております。これ以外の様々な意見についても、最大限中間案に反映しております。その他の御意見は、後ほど資料を御覧いただきたいと思います。

それでは、A3のカラーの資料でプランの中間案について説明させていただきます。本日は時間が限られておりますので、7月の骨子案から追加や修正を図った部分を中心に説明させていただきます。

ページの下部に番号を付しており、2枚目の4ページでございます。骨子案からの大き

な修正点の一つは、基本理念に基づいて4年間の3期プランの取組で何を指すのかという、「4年後に目指す本県観光の姿」の箇所です。括弧書きで“地域の姿とおもてなしの心”としておりまして、従来の沿岸部や県全体などの目指す姿だけでなく、それぞれの地域で、訪れた観光客の方々にどのようなおもてなしを目指すのかということを追加しています。

1つ目の「沿岸部」の4年後の姿であります。沿岸部への観光客が回復していることです。被災された方々の気持ちに配慮する必要がありますが、被災地での観光、宿泊、買い物は地域経済の活性化につながりますので、多くの方にお越しいただいて、漁業体験などの体験型観光や、宮城でしか体験できない復興ツーリズムなどの魅力ある観光地づくりを目指してまいります。おもてなしのあり方では、沿岸部の地域全体が観光客から元気をもらいながら、心をこめたおもてなしを提供していることを目指します。

2つ目の「県全域」の4年後の姿は、風評の払拭とともに、自然の美しさや多彩な食文化などの本県の多様な観光の魅力が幅広く認知されていること、おもてなしのあり方では、DCや地域の文化等で培われたおもてなしの精神が県内隅々まで浸透し、あらゆる場面で、県民総参加で観光客を歓迎していることを目指します。その結果、県内外から多くの観光客がこの地を訪れて交流人口が増え、その観光消費がもたらす経済効果が震災からの復旧・復興をけん引する役割を果たすことを目指します。

3つ目は「東北地方の玄関口としての宮城県」の姿です。県境を意識して旅行するお客様はいません。観光客は、本県だけでなく、東北各県の魅力ある観光地も訪れたいと考えています。ですので、仙台駅や仙台空港等を擁する本県の東北地方の玄関口としての役割はますます重要になると考えております。さらに、既存のフルサービスキャリアに加え、格安航空会社LCCの就航拡大や仙台空港民営化は、新たな観光客を獲得する大きなチャンスです。東北の玄関口としてのおもてなしの機能をさらに強化し、東北地方の各県や東北観光推進機構などの関係諸団体との連携の下に、国内外の多くの方々が本県を起点として東北地方の観光地を周遊しているということです。さらに言えば、回復が遅れている東北地方全体が底上げされるような広域観光を目指すということです。おもてなしのあり方では、東北各地で開催されるデスティネーションキャンペーン(DC)等を契機として、東北全体が東北ならではの心あたたまるおもてなしで歓迎しようという気運がみなぎっており、また、観光客が宮城に入った瞬間に、例えば、東北各県の観光情報が得られるとか、東北ならではのおいしい食べ物が味わえるというような、宮城で東北全体を感じられるようなおもてなしを目指します。

最後は、「日本、そして世界の中での宮城県」の姿です。海外の東北地方に対する風評は未だに根強いものがございます。その風評が払拭され、また、増加が期待できる東南アジア諸国からの旅行者を本県に呼び込み、大幅に落ち込んだ海外からの観光客の回復を目指します。おもてなしのあり方では、首都圏や大阪、京都などの他の地域では味わうことができない宮城・東北独特の、飾り気のないおもてなしで外国人旅行者をおもてなしするという姿になります。その結果、東北地方が外国人にとって、東京から大阪、今度は富士山が真ん中にありますが、京都に至る日本のゴールデンルートに続く新たな観光ルートとして形成され始めているという姿を目指します。

1枚めくっていただき、5、6ページは3期プランの取組の方向性の案でございます。

一番左側が「課題」で、矢印の右隣が課題に対応する「必要な取組」、右側には「必要な取組」に沿った「主な事業」を記載しています。

必要な取組の5本柱については、骨子案から変更ありませんが、それぞれの「必要な取組」に具体的な事業を記載したことが、骨子案との大きな変更点でございます。「必要な取組」別に説明させていただきます。

まず上の方の水色の「緊急的・戦略的な取組」です。3つの取組がございます。

1つ目は「沿岸被災地の観光回復」です。この取組では、他圏域に比べ遅れている沿岸部に観光客の回復を図るため、風評払拭のための継続的で正確な情報発信や、本県でしか体験できない復興ツーリズムの推進、沿岸部の交流人口促進のための共同の宿泊機能復旧や特産品の開発事業、観光施設の再建支援の継続のほか、三陸の森や川といった自然を再発見する取組、復興ツーリズムのガイドの育成、道路や交通安全施設の整備などが重要であると考えております。

2つ目は「外国人観光客の回復」です。この取組では、落ち込んだままとなっているインバウンドの回復を図るため、海外の風評払拭のための正確な観光情報の発信、教育旅行や海外の企業が従業員や取引先に対する報酬として行う「報酬旅行」、いわゆるインセンティブツアーといわれるものでございます。これらの誘致のほか、外国語による案内表示や無料Wi-Fi接続サービスなどの外国人旅行者が過ごしやすい環境の整備の推進などが必要だと考えております。

3つ目は、「LCC就航や仙台空港民営化を契機とした東北が一体となった広域観光の充実」です。この取組では、本県を玄関口とした東北域内の広域観光の充実を図り、震災からの回復が遅れている東北地方全体の観光の底上げを図るため、仙台空港の就航地での航空会社と連携したプロモーション、LCCの就航や2015年に計画している仙台空港民営化を契機とした基盤整備のほか、東北各県と連携した東北全体の観光資源の魅力のPRなどが必要だと考えております。

次は、黄色の「継続的な取組」のグループです。2つの取組がございます。いずれも、本県への誘客拡大のためのベースとして、従来から取り組んできた課題です。

1つ目は、「国内(県外)からの誘客強化」です。この取組では、県内客が半数以上を占める本県の観光に、県内客を維持しつつ、さらに多くの県外客を呼び込むために、ICTを活用した本県の多様な観光資源の情報発信や、県外からの教育旅行の誘致のほか、県民総参加で盛り上がったDCの勢いを持続、維持する、さらなるプロモーション活動の展開や慶長遣欧使節出帆400年記念事業などの取組に力を入れていきたいと考えております。

2つ目は、「観光客の受入態勢整備・魅力向上」です。この取組では、本県を訪れる観光客に御満足いただける環境づくりを図るため、あらゆる観光客が安全に利用できる公園施設の再整備や観光案内板の整備などのハード整備だけでなく、効果的な観光情報発信のための研修会などの人材育成、本県の自然や食文化を生かした新しい観光分野や体験型観光メニューの造成、みやぎの県産ブランド品の確立支援なども含めまして、観光資源の磨き上げや観光地間の連携による周遊促進に力を入れてまいります。

なお、概要版に掲載しているのは、県が実施する事業案の一部でございます。詳しくは、

資料1の中間案本編の35ページ以降に、県事業だけでなく、市町村等が実施する事業についても掲載しております。また、個別の事業については現時点では計画中・構想中のもも含んでいることと、市町村事業については全ての市町村の事業が掲載されているわけではないことを御承知願います。

以上5つの大きな取組により、みやぎの観光の再生とさらなる飛躍に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

最後の7、8ページの目標案につきましては、骨子案から変更はございませんので、説明は省略させていただきます。簡単ではございますが、説明は以上でございます。

東日本大震災から宮城・東北の観光が再生を成し遂げ、地域経済と復旧・復興をけん引する役割を果たせるよう、その指針となる「第3期みやぎ観光戦略プラン」に対し、皆様方から忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

堀切川部会長

どうもありがとうございました。それでは、ただいま説明のあった事項につきまして、皆様方から御質問あるいは御意見等がありましたらよろしくお願い致します。特に、今回の中間案の資料1の第3章に「みやぎの観光の再生に向けた第3期みやぎ観光戦略プランの策定」、第4章に「みやぎの観光の再生に向けた取組」という項目が設けてあり、それを受けて、資料2に分かりやすく整理してあると思いますので、いろいろな切り口でけっこうですので、よろしくお願い致します。

畑中委員

私は観光については、マスコミ報道くらいしか承知していませんのでけれども、製造業の立場から申しますと、観光と経済は切っても切り離せないところがあると思います。経済は進出企業とその従業員との協力があって、経済と観光は両輪で取り組んでいくところがあっても良いと思います。

そういう意味で、国内では関東以西からがまだまだ少ないので、これからもっと呼び込みたいというのであれば、県の音頭でトヨタ関連の企業がどんどん来ていて、地元の人がたくさん雇用されていますが、中部地区からお出でになっている方もずいぶん多いと思います。よそから来た人の方が宮城の良さをよく知っているのですから、我々はあまり関心を持たないのですけれども、そういう方は隔々まで宮城県を知っていますから、そういうチャンネルを通して宮城の情報発信をしていただいて、その辺で地道に来てもらう。海外に仕事で行った際には、仕事のついでに少くらは観光に行きます。そういうことから、宮城の企業が強くなると、もっと海外も含めて、人の往来がもっとあると思います。そういうところとジョイントして観光にもっとPRしていくことも必要だと思います。

堀切川部会長

その通りだと思います。

犬飼部長

今お話されたことはその通りだと思います。今、産業観光ということで、トヨタの活用はぜひしたいと考えています。それから、LCCなどで関係者が安く来られるようになれば、家族も来られるようになります。また、トヨタの関係者に東南アジアから、「よく働きました」ということで、報酬旅行で来るということもあると思います。

橘委員

観光の面で先進県というのは長野県というイメージがあります。何かと観光の勉強ということで、長野県に行って新潟と長野の間の信越トレイルなどの研究を行います。

震災を機に、宮城県が観光先進県になれないかなと考えています。研究に宮城県に来てもらうというのはどうでしょうか。あまり大きいことを言って、達成できないと困ります

が。

聞くとところによると、自転車の世界大会を宮城県に持ってきたいという話があります。国土交通省が関係しているとのことですが、リアス式海岸を眺めながら自転車で競技をするという話があります。そのような世界に発信できるような大会をどんどん持ってくることなどが考えられます。

他には、観光業界から、宮城県だけ最初に始められても困るという話がありますが、旅館の全面禁煙を目指すことはどうでしょうか。非常に難しいことで、先陣を切ってやりたくないという意見も多いと思いますが、やるなら東北六県全部が禁煙をやるということを宮城県の観光課が推進して引っ張っていくという、思い切ったことも必要だと思います。

先日の審議会では、国際リニアコライダーが東北に来るのは難しいのではないかという方向で話をしたのですが、今回候補地に選ばれたということで、リニアコライダーが来るとなると、宮城県がすごいことになるということです。そのために音楽をツールにして世界発信をするのもよいかと思います。イメージを世界に発信するには、英語で歌うようなバージョンのバックグラウンドミュージックのようなものが良いと思います。堀切川部会長はいろいろ名案をお持ちですが、その辺は手つかずだと思います。イメージ戦略をどうするかを考えて発信していただきたいと思います。

堀切川部会長
平賀委員

そうですね。観光といえば宮城ということが将来的には実現できるといいですね。

明日から全国から商工会議所の女性会を集めて、349の会の3,486名が参加することになりました。近年にない大きい数字でございますが、何が一番大きいのかと言いますと、皆さんが災害復旧のために行って買い物をするということです。それでどうするかと言いますと、今日皆さんの素晴らしい計画を拝見させていただいたのですが、ではどのように実行していくかという段階になっていないと思います。これはこのように実行させていただきましたという報告が欲しいと思います。

私の方からは、それに先駆けてまち歩きをさせていただきました。A、B、Cコースで朝市のコース、三越から仙台駅に向かうコース、オフィス24から仙台駅に向かうコース。全部で823名のお申し込みがありました。どういう風にまち歩きをしているかということが自慢なのです。これだけの人歩いている、人がいるということが、東北の他のまちではないことです。私は自慢に思います。しかし、石巻や気仙沼などでは、仙台より非常に少ない。なぜなのかと考えています。

その他、懇親会をやる前に、Aコースの149名の4台のバスなのですが、沿岸被災地を見たいという声が多いのです。被災地は、怖いもの見たさというとおかしいのですが、何も無い。語り部をお願いしたのですが、2名しかいないというのです。その2名の方に来ていただいて、説明してもらいましたが、受入態勢が全然できていないということが分かりました。

さらに、大会が終わった後、仙台駅に行くのですが、まず、東松島に187名、5台のバスで行きました。説明する人は誰もいません。資料はいろいろ見させていただきましたが、何を、どこを見せようか、災害時どうなっていたのか(を説明することができません)。

その次は、石巻気仙沼コース。バス3台で、気仙沼に行く前に志津川に泊まっていこうという1泊コースです。船を解体しようという動きがありますが、私は広島原爆ドーム

のように、申し訳ありませんが、私は、それは非常に大きな観光資源になると思います。もう一步、県が何らかの形でそういうものを残すようにしていただきたい。私は、雲仙普賢岳の火砕流で屋根が半分しかない家屋を見に行きました。取り壊そうと思えば取り壊せるわけで、しかし、それを置いておくことで、わざわざそれを見に行こうという観光資源になるということを経験させていただきました。

それと、秋保、松島、米沢に行きます。それからコースに入っているのが、平泉の中尊寺の観光です。あそこは商工会ですが、よく連携してくれました。そういう連携が大切だなと感じました。実際、そういう行きたいという声があるにもかかわらず、受入態勢が整っていないということです。

同じように、中国語、韓国語、英語の表示がない。ぜひ実行していただきたいと思います。駅についてはローマ字しかないなど、言っている割には全然動いていないとすごく思います。現にみなさんがお出でになっていて、リピーターになることが一番大事だと思います。リピーターになるには少し足りないかなと思います。

バスだけでも全部で88台のバスを使わせていただきました。実際にやろうとしている中でいろんな不備が見えてきました。(戦略プランは)すごくよくできていますので、このようにできましたよという報告書を頂戴したいと思います。

私は浅野知事と一緒に大連に行ったことがあります。岩手県の増田知事も一緒でした。増田知事は大連に支所を作って、きちんとやっていきましたが、宮城県は全然やりませんでした。また、台湾には山形の広告やパンフレットがありましたが、宮城県はありませんでした。ですからもう少し、そういう点で、どのように実践するかが大切だと思います。

堀切川部会長

関連ですが、被災地を見たいという人は今でも多いのですが、県では被災地ツアー、復興ツーリズムという言葉でそれを推進したいということだと思います。旅行会社などでは被災地をみんなに見ていただけるようなメニューがあると思います。ただ、どこに相談したらそういうところにつながるかというつなぎ役が必要だと思います。復興ツーリズムという話になると、市町村に聞くわけにもいかないの、県の方で誘導してあげないといけません。情報を収集して、相談窓口のようなものがあればよいと思います。

例えば、仙台駅2階の観光案内所がありますが、あれは仙台市でしょうか。仙台観光コンベンション協会が、あそこしか目に映るところがないとすれば、東北のゲートウェイというよりは、仙台市は仙台市だけがよければいいという象徴だというような気がします。あそこは、仙台市と連携して、なんとか県内または東北全体のツアーに行く相談窓口として拡張して、「被災地も見たい」という相談窓口があると、一日や半日コースでこういうものがありますよという紹介ができれば、いろいろな大会などで訪れる人たちも見やすくなるかなと思います。

橘委員

海外の方について、パキスタン人のタヘルさんという方が突然電話をよこして、それ以来交流しているのですが、支援をしたいということで、NPOをつくって、千厩に300万円で家を借りて、そこを改装して基地にして、湊小学校、岩切小学校などのボランティアをはじめいろんなところに行っています。元々愛知県でジュウタンの輸入輸出業をやっていました。家族を連れて、家族は仙台で勉強させなければいけないということで、南中山中学校や白百合小学校などに入れて、自分はボランティアで頑張ると言っています。あ

あいう人たちは英語も達者で、ウルドゥ語も喋れて、何でもやりますと言っていますが、何をすれば良いか分からない。県ではこういうことが必要ですと伝えたら、ずいぶん手伝ってくれるのではないのでしょうか。

ウルドゥ語を喋る人は世界で一番多いそうです。イスラムの人たちは怖いというイメージがありますが、すごく優しくいい人たちです。そういうやりたいという人たちにどんどん手伝ってもらえば、もっともっとお金がかからずに世界に発信できるのにとおもいます。

堀切川部会長

個人的な好みは他の都道府県でやっていないうまい手を使ってやることを応援したいのですが、他の都道府県でもいいことをやっていたら真似た方がいいと思います。

それで、外国人の観光客の回復のところ、実際は外国人の観光客が占める経済効果はたかが知れていると考えているのですが、やはり外国人も来ないようでは気分がのらない。実は今週、全国知事会の優秀政策の審査会がありました。観光がらみの話は他県の情報を手に入れたいなと思っていました。優秀政策に選ばれた群馬県の政策で、観光ではないのですが、外国人と交流する国際化ということで、実際は観光狙いということでした。群馬県は、宮城県と比べても弱いところがあって、陸・海・空でいくと、海はなく、飛行場もないので、陸路でしか来られない。日本の中とは思えないような不便な場所だということですが、それがどうやって外国人に来てもらうかということで、群馬県はお金もないそうで、それなりに優秀政策に選ばれたのには、作戦が2つありました。

一つは、群馬県内の大学に来ている留学生をツアーバスで県内の名所などに案内して、群馬の良い所を見せるというものです。そして、留学生にはブログに、群馬にはこんな良い滝や温泉があって、ということをそれぞれの母国語で自由に書いてもらいます。そうすると、それぞれの東南アジアの母国語で、母国の代表選手に表現されます。結果的にお金がかかりません。このために、留学生には群馬県の海外サポーター認定書のようなものを出して名誉をあげています。母国に帰っても活動してくれる人がけっこう出てきているということです。そういう意味では、宮城には山ほど留学生が来ているので、多少お金はかかりますが、そういう人たちをバスで連れ回って、自分の国に情報発信してもらおうという取組でした。いずれ、そういう協力をしてくれる人はボランティアで観光パンフレットをその国の言葉で作るのを手伝ってくれます。群馬の良いところを見せて、良さを分かってもらうということです。

もう一つは、海外にある県人会を活用することです。東南アジアにはたくさんあるそうですが、アメリカやヨーロッパにも全部で十数ヶ国にあるので、そういう人たちに群馬の良さを情報発信してもらおうように、サポーターのような任命制度で名誉を与えて、貿易関連の展示会などをやる時には、現地の県人会が一生懸命応援してくれるそうです。

そうやって群馬が好きで愛情がある海外の方と、海外から来て群馬が好きになった人の両方を使ってやるということが優秀政策に選ばれました。大賞を取ったかどうかは分かりませんが、うまい手だと思います。宮城でやったらもっともっとやれるなと思いました。

これをもっと狭く考えると、他県にも県人会があるわけで、特に中部から西日本、本県出身者が少ない方ががちり固まっていて、県人会の人たちに、例えば職場でみやぎの旅行を考えて欲しいという、みやぎの観光サポーターのような役割を担ってもらいます。それと、群馬県の方のプレゼンでは、県人会の人は予想以上に働くそうです。群馬を離れて

いるのでその良さが分かるという言い方をしていました。旅行者だけ使ってもなかなか動かないので、その辺りをうまく活用した方が良いと思います。

それと、留学生をうまく使うというのは、留学生は金銭的に恵まれた環境にあって、余裕のある方が多いですから、そういう人たちは母国でもそういう仲間が多くて、場合によっては、おまえの家に観光に行つてやるかという人もいるかもしれません。

海外と国外の県人会を使うというのはどうでしょうか。やるのは大変ですが、金はかからないと思います。

資料2に書かれていることで、これはよくないと思ったことは一つもありませんでしたが、今から4年間分の施策はこれですが、1年目はいろいろと準備をして、2年目から4年目まで3年間、みやぎ観光大賞のようなものを県主導で作つて、宮城観光大賞の部門別大賞として、非常にヒットしたツアーメニューを企画した旅行者を表彰するとか、あるいは宮城観光大賞にふさわしい新しいおみやげを出してきたところにあげるなどはどうでしょうか。あるいは、沿岸部の復興も含めて、観光と絡めたメニューで成功した人など、いくつか部門に分けて、毎年この戦略のための宮城観光大賞ということをやると、こういうものが選ばれましたという告知自体が次の年の宣伝になります。

それで、キーワードがおもてなしというのは第2期のときから、大好きな言葉ですので、おもてなし部門もつくつて、代々継続していくことも良いと思いますし、新しいものも始めればよいと思います。賞状は1枚500円くらいしかしないので、たくさん表彰すればよいのではないのでしょうか。

全国知事会で政策大賞をとった香川県のうどん県というのは、観光分野だけでなく、全ての部門の大賞でした。ヒアリングで香川県庁の話を書き聞きましたが、いいことは良かったのですが、最大のデメリットはうどんしかないと思われたことだそうです。香川県にはそれ以外にも良いところがあるということで、後からキャンペーンで追加したのですが、全然浸透しなかったそうです。

私は、みやぎ観光大賞を行う際には、漏れがないジャンルで、それぞれ光るところを表に出すということをやっていくことだと思います。「来年はうちも取りたい」というところは絶対にありますので、そうすると、そこが底力としてアップしていきます。厳しい審査ではなくて、緩い審査というのが宮城の観光戦略には欲しいなと思います。そうすると、パンフレットなどに観光大賞受賞などと書きますし、県をあげてやっているなという感じにもなります。

その中に、例えば被災地ツアーを中心とする復興ツーリズムの部門を用意すると、それぞれの旅行会社は、大手さんは活券に関わるので本気でやらないといけなくなり、良い連鎖になるのではないのでしょうか。

畑中委員

私もそう思います。製造業の世界では、数年前から「みやぎ優れMONO」がありますが、最初は遠慮して引っ張られてやっていましたが、だんだん浸透してきて、エントリーする会社が増えてきて、優れMONOで認証を受けて全国へ発信して、新しいビジネスを起こしたいという積極的になってきています。すごく良いテーマですね。

堀切川部会長

優れMONOの場合は、宮城県の産業技術総合センターの1階のロビーに、受賞のきれいなパネルが増えていきます。あそこに飾られたいという会社さんががんばるのです。

それを観光の分野でやるということ、例えば宮城在住の外国人で情報発信を非常によくした人も対象にすればよいと思います。

橘委員

さきほどの話のタヘルさんが自分の子どもたち3人をわざわざ名古屋から連れてきたのは、地域の中の小学校に入れたいということ、彼らを育て将来宮城県や岩手県を世界に発信する人間に育てたいということもあったそうです。だから日本語、漢字を一生懸命勉強するとやっているのです。世界に発信出来る人材を育てていくということは、宮城県にとっては財産なのです。

堀切川部会長

ちなみに、群馬県の観光担当の方が言っていたのですが、外国人に観光地やまちを見せると、例えばその辺に野良猫や犬がいないことなど、自分たちが別にすごいとは思っていないような普通のをすごく誉められて、驚いたそうです。そういう情報は普通こちらからは発信しません。新幹線が時間どおりに動く県ですなんて言う人はいませんが、外国人にとってはそれがすごく不思議なことなのです。外国人はそういうものにすごく感動するので、我々が気づかない当たり前のことをうまく発信してもらうことをうまくやるとすごく盛り上がると思います。

観光で復興を推進すると知事もおっしゃっているので、表彰状をお渡しする人はできれば知事から、代理は犬飼部長でいいと思います。例えば、部門毎に大賞を用意して、その下に優秀賞のようなものがあるとすごくいいと思います。県民総参加というとても良い言葉を表彰制度で具現化できると思います。

今から、1年目でじっくりその作戦を練って募集案内を出して、2年目からそういうことをやりますよということをアナウンスできればいいと思います。細かくどういう部門があるかは観光の専門家にお任せしたいと思います。

志賀専門委員

私は県の観光会議の座長をさせていただいているのですが、そこで出された意見はこのプランに反映されていると思います。そこで、立場上、会議では個人的な意見は言えませんでしたので、会議の場で発言できなかったことを二、三お話ししたいと思います。本日の会議でまさに観光の分野におられるのは橘さんだと思います。異なった分野の方々と観光についてお話することに新鮮さを感じています。「そんなこと言わなくても分かる」といった同業者の人との間では当たり前のことも、他の誰かに見せてみると、私たちが当たり前と思っていることに大変関心を持たれたり、すごいと思っていたことが全然ダメだったりということがあります。

観光は地域と切り離しては考えられない分野といえます。例えば、橘さんのところで、給与やコストを切り下げるために、海外に行って仕事をしようということにはなりません。その土地とともにつけている、そういう分野です。特に旅館についてはそうなると思います。そうすると、とことん地域にこだわって地域の魅力を高めていかないといけない分野だと思います。それは松島であれ蔵王であれ、どこもそうで、昔こうだったからということだけで勝負できることではないし、考え方も変わって、旅行の形態すらも変わっています。そういう意味では、インバウンドを増やすことをキーワードにすることも大切だと思います。

私が計画の中でもう少し強調してもらいたいと思ったことは、どうやってリピーターを増やすかということです。全国で、観光でうまくいっているところはリピーターが多いと

ころです。リピーターを獲得できないところは、最初から客が来ないといっても良いくらいです。例えば大分の由布院を見ると、何十回も来ましたという人がいて、由布院の床屋でないと嫌だとかいう人もいて、床屋と温泉は関係ないように思いますが、地域ぐるみで受け入れています。

観光というと、旅館と観光協会しか関係ないから自分は関係ないということが多いですが、由布院では、農家の方が地元産のものを食べてもらう場合は旅館だと考えていて、作付け会議にも旅館の料理長が入ってきて、あなたのところから買うとか、そういうことを地域ぐるみで何十年もかけてやってきています。由布院は狭い町ですから（年間観光客数が）400万人というのは、自分の町の人口と同じ人が毎日来ていたということになります。うまくいっているところは、景気や大都市からの距離などとあまり関係がないのです。

そうすると、我々には新幹線があり、高速道路もあり、資源も豊富にあるというのは、それを使っていかに来ていただくか、観光客の心をつかまえて絶対に離さないような、つまり受入態勢をもっともっと強調していくことが大切だと思います。観光をやろうとするときには、地域が一枚岩になって、来ていただいた人にもう一回来ていただくための作戦を立てて、数字をしっかりと作っていくということです。

そのためには、先ほど話が出た仙台駅の役割は非常に大事です。観光案内所は仙台観光コンベンション協会が運営しているのですが、年間で延べ40万人くらい訪れ質問を受けます。そのうちの2割は平泉の質問で、他の2割は松島と山寺で、仙台をはじめ宮城県に関する質問は半分くらいです。ということは、逆に言うと、平泉のことを聞かれたら、車なら何時間でいけますよとか、電車の乗り換えが必要ですとか、過ごし方あるいは平泉の歴史などについて話すとか、平泉の人以上に平泉のことを説明できるくらいのレベルが必要ですが、そういう形にはなっていません。私も相当指摘してきたことですが、予算がないとか場所が狭いなどの理由で、ずっと以前のまになっています。では、平泉から人を呼んで、担当してもらってはどうかというところもやる気があればあり得ますが、積極的に情報発信する場として、市と県を挙げてどういうやり方がよいのか考えて欲しいと思います。

来られるお客様にとっては、県境は関係ありませんので、山形や秋田、青森などのことについても分かるように備えないといけないと思います。そういう意味では、宮城県が観光においても東北と一緒にまとめていく役割を果たすことが必要です。つまり、立地条件から言っても、比率から言っても、今仙台市の交流人口は年間1800万人で、相当影響力を持った都市になっています。そういう政令市が宮城県と連携してDCも成功させてきました。そういう力を背景にして、気配り目配りを東北に行くようにして欲しいと思います。そうすると、東北の観光客が増えて一番うま味を感じるのは宮城県で、また東北の観光客が減ってダメになって影響を受けるのも宮城県です。必ず宮城県を通過するのです。先ほどの案内所の問題もありますが、よその所をけなすのではなくて、誉めて欲しいと思います。堀切川部会長がおっしゃった表彰制度のように、良いところを探すとよいと思います。

最後に、地元の方が地元のことを知らないというのは致命的です。函館で大失敗した例があって、観光客のために朝市を作ったのですが、訪れた観光客は地元の人がいなかったため

に帰ってしまったのです。観光客は地元の人とお店の人が話しているところを見たいし、地元の方と話をしたいのに、観光客だけというのでは価格を高くしたいからではないかということになって、大失敗に終わったということです。リピーターを増やすうえで、地元の人が来ないところにはよその人が来るわけがないという発想があるのだと思います。

今の東北の観光の流れは、70%が東北域内で動いています。だから、言い換えると、よそからの人が少なすぎるということで、関西以西を攻めろという話もありました。まさにそういうことはやり続けられないと思います。では、来ていただいて地元を語るのかというと、意外と知らないことが多いと思います。私も言い返せず、かえって向こうの方が知っていて、指摘されることもあります。

それから、海外から人を呼ぶに当たって、東北各県のパスポートの取得率が低いことは問題だと思います。自分たちが海外に興味を示さないのに、よそから来てほしいというので良いのでしょうか。これは順番もあって、自分たちがいい体験をしよう、学ぼうという機会を増やすことによって、話題もできますから、来た方と話すこともできるわけです。やはり、自分たち自身も海外にもっと目を向ける県、地域になるということ、観光の場合には考える必要があると思います。

畑中委員

私は家に帰れば農家なのです。大崎の美田が集積しているところです。その中で、大崎地域も六次産業化で、それぞれ農家がいろいろな取組をしています。私たちは農業法人に移行すべく、その過程の中で、ホテルと連携して作物をつくっています。

そういう中で、間接的に観光の人たちとはつながっています。そういう意味では、農業の作物づくりも変化しています。県の指導もあったと思いますが、稲作一辺倒から野菜も含めてニーズがあわせていろいろな対応をしてきていると思います。ただ、農家の人はどちらかというと、言われたことをやるのが得意ですから、自分たちが考えて何かやろうということはあまりありませんでした。しかし、今度は農業法人化して、どんどんそういう所に出て行かないといけません。消費者とつながっている、その延長で観光とつながっていると思います。

よく県や市町村サイドでこういうことはやっていますけれども、実際に地域ではどういうレベルで考えているのでしょうか。農業と商工業者がつながって、全体で観光に取り組むことが必要だと思います。私もここに出てくる前は、観光と工業でどう話したら良いかと思っていましたが、皆さんのいろいろな話を聞いて、思い当たったことを話させていただきました。こういう場がいろんなところであって、全体の取組を網羅するようなかたちで進めていくと良いと思います。

橘委員

一つ思い出したことで、ずっと以前にイタリアのローマと宮城県が交流したことがあったと思いますが、それは戦略プランには全然載っていません。イタリアのパスタやピザを釜で焼く人がとても増えています。あちこちでそういう取組は根づいているようです。

戦略プランには支倉常長くらいしか載っていないのですが、あれはやめてしまったのでしょうか。

犬飼部長

我々はイタリアのローマ県との交流を積極的に進めようと思っていたのですが、あちらの県は組織体がこちらの県とは違って、それもあって、行政同士の交流は進みません。ただ、当時カルチャーフィットとして、特定の作物をいただいて、それをこちらで栽培な

どしたのですが、なかなか連続するしくみがなくなって、現実的には今は進んでいません。ただ、いろいろな所との交流は、民間レベルでは進んでいると思っています。

観光戦略の中でイタリアなどを入れていないのは、たまたま重点的にやるものを掲載しているものであって、それ以外に可能性があるところは進めます。そういうことで記述していないということで、記述していないからやらないということではありません。

堀切川部会長

個人的にやりたいことがあって、イタリアの食文化を宮城に持ってきて、色を変えて仕掛けようと思っています。だいたい日本の料理にはオリーブ料理を使いますが、オリーブオイルが西の横綱だとすると、東の横綱は米油です。米油は同じオレイン酸系で、オリーブオイルのように強い香りがありません。日本で、ある会社が一生懸命ハーブをつくって、がんばっているところがあります。ハーブを米油に入れて料理に使うと、オリーブオイルよりもはるかにうまいということを実践しています。米油は、山形、福島、宮城でとれた米油を使おうなと思っています。

先ほど観光と商業の話がありましたが、私は福島県庁の非常勤職員も兼ねています。福島県は風評被害がケタ違いで、漁業は壊滅、農業もダメ、工業製品でさえも外国からは福島で部品を作るのはダメとされています。

そこから生まれる地元の中企業さんの工業製品で、一般家庭で使えるものがあれば、それは道の駅で販売しましょうという提案をしています。道の駅は田舎にいけばどこにあります。道の駅は、名産品の野菜や生鮮食料品とおみやげ物だけなのですが、そこに地区の工業関係の会社で作ったおもしろいアイデア商品を展示販売するコーナーを作ってほしいと福島県に話をしています。販売先の確保を先にやってから、新しいものを作りましょうということで、タイアップしてやっていくと、その製品はそこに行かないと買えないので、仕方なく首都圏からクルマを飛ばして来た人は、道の駅でついでにおいしい野菜があれば買って、結局泊まって帰るだろうという作戦です。そこにしかないいいものを生み出せたら、そこで最初に売る拠点を用意して、販売しようかということです。宮城県には提案していませんが、提案しても良いと思います。

先ほどのリピーター（の目標）には大賛成で、どこかにリピーターを増やそうという取組を書き込みできないでしょうか。

資料の7ページ、8ページですが、第2期のときに数値目標を具体的に入れましょうということを提案して、第2期から数値目標を入れることになりました。そうしないと、ただらとやって、達成感も出ません。今回は、平成29年の数値目標ということで、ほとんどが震災前の第2期の数値目標と同等か、それ以上の高い目標を設定しているので、個人的に大賛成です。大丈夫かなとは思いますが。特に、観光客の入込数については、第2期の目標の6500万人は大きな目標だと思いますが、今回は震災復興がらみで仕事に来られる方もたくさんいるということを考慮してか、6700万人に設定しています。

また、宿泊観光客数の900万人というのも、無理なく850万人くらいにしておいた方がよいとも思いますが、宿泊観光客数は、宮城県の特徴で、県内の人泊まる率が非常に高い。他の県にはない特徴です。地元の人が秋保に行って、鳴子に行って、松島に行くという人が多いというのは、地元の人がリピーターだということになります。逆に言うと、そこが宮城の特徴だとすれば、実は首都圏、特に中部から西側を含めててこ入れすれば、

上乘せになりますから、900万人というのは達成不可能な数字ではないと思います。

ちょっと志が低くなったのは外国人の宿泊者数ですが、風評被害は日本全体に及んでいます。そのフィルターを考えると、現状は7万5千人ですから、15万人にしないで16万人にしているところに努力が見られると思います。

観光消費額が今は未定になっていますが、プラン確定の時には数値を入れなければいけません。私の質問は、観光消費額の数字の方向性はどのように考えておられるかというのと、の「観光客に対するアンケート調査での宮城県への再訪問意思率」に至っては、やってみなくては分からないリピーター規模率ですが、このあたりを目標とするのであれば、数字を書かなければならないので、どのようなプランニングなのかを教えていただきたいと思います。

犬飼部長

資料1の15ページを御覧ください。観光庁の資料なのですが、15ページ上の方が観光客入込数で、色の濃い方が県外客、薄いのが県内客です。先ほど言われたように、長野県は県外からの観光客が多いのですが、宮城県は県内客の方が多いです。その下のグラフは入込客数ですが、長野県は宮城県より多いです。

21ページの観光消費額は、外から来る人が多いところは観光消費額も大きいです。先生がおっしゃるとおり、県内での域内流動も活発化させていくことは良いことなので、それにプラスして、県外客も増やしていきたいと考えています。

今の観光入込客数5200万人が実際消費としてどのくらい効いているかというのはなかなか分からないのですが、今後も沿岸部に直接的にお金を落としてもらわないとなかなか復興が進まないで、県外からのお客様にお金を落としてもらうという意味で、ここはある程度チャレンジ的な指標だと思います。

それから、リピーターの指標ですが、リピーターも県内でぐるぐる回るものと、よそからまた来ていただけるリピーターとは違うと思います。この辺がけっこう難しいところで、未定になっていますが、今回だけでなく、いろいろ御意見をいただきながら検討していきたいと思います。

堀切川部会長

個人的にはの観光消費額は目標値を書かざるを得ないと思います。しかし、この御時世なので、うかつに6300億円とは書けないだろうと思います。震災後の修正値が5387億円で、現況値は4058億円なので、平成29年の目標値は少なくとも5500億円にしたいと思います。震災の修正した時よりも明るい目標にしないと、気持ちが悪いと思います。ただ現実は見ないといけないので、6000億円とは書けないのではないのでしょうか。5500億円でもかなり高いハードルだと思いますが、数字があって皆さん頑張ると思います。

犬飼部長

同規模の他県で頑張っているところでは観光消費額がどのくらいなのかを参考にしたいと思います。北海道や沖縄や東京などは別で、同規模の県で我々がこの辺りだと思う県、人口規模も似ていて、観光資源もだいたい同じくらいのところですよ。

堀切川部会長

ぜひ分析してください。ただ、5300億円より少ないのでは寂しいと思います。

犬飼部長

部会で具体的な御意見をいただいたのはありがたいです。

堀切川部会長

「観光客に対するアンケート調査での宮城県への再訪問意思率」に至っては分かりません。今までやった数字でまとまっているものではないのでしょうか。

犬飼部長

ありません。

堀切川部会長

この目標がなければ行政的には問題が少ないと思いますが、出す以上はやっていただきたいと思います。全く根拠がない場合は、「5割は超えたい」と書くのはどうでしょうか。毎年やるのであれば、前年度から数字を向上させることなどもあると思います。数字を書くのであれば、30%などとは書けないと思います。宮城県に来たけど、もう二度と来たくない人が7割ということになります。せめて50%以上にしないと、数字として掲げる目標にならないと思います。これは実は聞き方次第で、「チャンスがあったらもう1回」と聞くのか、「必ず来たいですか」と聞くのでは全然違うと思います。

もう1点だけ、中間案の資料1の目次のことです。中身をざっと読んだところ、いいのではないかという直感です。ただ、第3章のタイトルと第4章のタイトルがちょっとひっかかりました。第3章が「みやぎの観光の再生に向けた第3期みやぎ観光戦略プランの策定」で、第4章が「みやぎの観光の再生に向けた取組」ですが、違いがわかりにくい感じがします。第3章は「計画を策定するに当たっての方向性と目標」のようにするのはどうでしょうか。「みやぎの観光の再生に向けた」というのをどうしてもつけたいという意思表示であれば、例えば、第3章に「みやぎの観光の再生に向けた第3期みやぎ観光戦略プランの策定にあたって」とか、「みやぎの観光の再生に向けた第3期みやぎ観光戦略プランの取組の方向性と目標」などの表現の方がよいのではないのでしょうか。一方で、第4章が少し省略されてしまっていて、これを上に合わせると、「みやぎの観光の再生に向けた第3期みやぎ観光戦略プランにおける取組」とか、「第3期みやぎ観光戦略プランにおける具体的な取組」などのようにすると、第3章と対応するのではないのでしょうか。章のタイトルだけちょっと気になりました。

犬飼部長

御意見ありがとうございます。第3章は考えたいと思います。

堀切川部会長

個人的に5章立ては好きです。確か、第2期みやぎ観光戦略プランでも第5章的なところで、進め方などを伝えるところがありました。県民にとっては分かりやすいと思います。

犬飼部長

第5章では、地域の中での役割や啓発などを記載しています。あとは、表彰、大賞的な取組についても記載したいと思います。

堀切川部会長

戦略プランに表彰制度をやりますとは書けないので、その辺を意識してやろうということだと思います。おそらく、本気で取り組む人が増えると思います。

犬飼部長

それは第5章には書けないと思いますが、取組の中で、県民総参加のおもてなしの一つとして、例えばこういうものを、という形になると思います。

堀切川部会長

県民総参加による表彰制度でモチベーションを上げるという取組ですね。

本当は観光ではないけれども、自分もやってみようかという人も出てくるかもしれない。なんとなく、そういう大賞になるとすると、女将会が取りそうな気がします。

橘委員

38ページにイスラム教について書いてありますが、彼らは、お風呂は家族でも一緒に入りません。家族風呂があるので、みんな温泉に交代で入ってもらいました。温泉に入っていたことは彼らにとっても貴重な体験です。

平賀委員

実際情報がたくさん入るのですが、いざやってみるとできませんということがけっこうあります。大阪、阪神の商工会議所の女性会で総会をやるのですが、みんなが集まるというので、物産会をやってくれという話になりました。物産会をやって欲しいと頼んだので

すが、ダメなのですね。お話ししたら、「そこに行く人はいません。人件費や郵送費はどうするのですか」などと言われました。

山形県や盛岡では物産会を通してやりました。そういう意味では、向こうでは一生懸命被災地に手をさしのべてくださっているのに、宮城ではそれを受ける気持ちがないのです。結局、2700万円も購入してもらいました。宮城県では、出してくれる人がないのです。

平賀委員

女が動くと言います。今回の仙台での商工会議所の女性会も、1人3万円で、3500人弱ですが、非常に大きい数字になると思います。買いますから。この間もおさかな市場で買い物をしたら、市場で売る物がなくなるほど売っていました。

大いにリピーターになると思います。ですから、ここに行けば何でもできるよというような窓口があると良いと思います。

志賀専門委員

広域観光という言葉は使われ始めてからかなり久しいと思います。私は山形や仙台・宮城での広域観光について、期待感を持っています。以前は、山形県の観光地図をつくる時に仙台空港までは入っていませんでしたし、自分の県の地図だけで、これでは広域観光はできないのではと思っていました。

今はその辺はだいぶ考え方が変わってきました。隣に関心をもつことは非常に大切だと思います。仙台に来ると、青森の大間のマグロの話題くらいは出てしまいます。すると、自分には情報はないけれども詳しい人を紹介するとか、あまちゃんのインパクトも大きいと思います。ぜひ隣の県や違う分野に関心を払って、来た人に対してそれを伝える、誉めてあげる、紹介してあげるということがもっとあって良いと思います。下手に連携するとお客を取られるのではないかとという県境意識がありますが、そうではないのです。観光客が動きやすいように情報をあげられるかだと思います。

堀切川部会長

産業支援機関の会合があって、地元の中小企業がどこに相談したら一番親切かがよく分からなくていたことがあったのですが、震災直後に地元の商工業の人たちの相談窓口がアエルにできたことがありました。商工会議所と仙台市の事業団でコースを作って、そこに協力してもらえるところは窓口を出していいですよと話したら、どんどん東京などから支援が出てきたのです。それに近い話で、仙台駅にもっとスペースがあればよいのですが、さきほどの観光相談の窓口のスペースを提供するから、出したければ出してもいいですよとすれば、岩手県平泉町も、久慈市も来るかもしれません。それで登米からも来てというようになると思います。場所さえ提供すれば運営がだいぶ楽になりますので、最初はそこからでも良いかもしれません。

宮城県は東北のゲートウェイなので、宮城県内に限定せず、仙台・宮城に来る観光客のための説明に1人とパンフレットを持って来たいというのがあればここを使ってくださいという場所を提供できると、変わってくると思います。どこかが出すと、来月からうちも出さないとまずいということで、広がってくると思います。場所が大変だと思いますが。吉永小百合さんのポスターが貼ってあるあたりを有効活用してもよいのではないかと思います。仙台観光コンベンション協会の右側のスペースにそういうものがあると、すごく変わると思います。

そうなると具体的な提案があって、仙台宮城は出張で、日帰りや1泊で帰る人が山ほどいます。あの方々を観光客に変えるのがよいと思います。例えば、仕事でいらした皆様に

今からでもできる半日・2時間コースの午前中のツアーメニューや、仕事が終わったら青葉城址に行って少し観光して、青葉城址の眺めのよい場所で牛タンを食べて、国分町に行くというようなナイトツアーメニューが4800円などとなると、おそらく出張で来た人もホテルにまっすぐ帰るよりも楽しいと思います。観光する気がなかった人に思わず観光したくなるような、お仕事で来た方にご苦労様ですツアーのような、ショートツアーがあれば良いと思います。

京都や銀座などではナイトツアーをやっています。仙台空港に来て結局はアクセス鉄道で仙台に来る人も多いので、駅に出たら2階から離さないようなしかけもよいと思います。

志子田課長 ナイトツアーもこの前のDC期間中にも試みとしてやってみましたが、けっこうお客さんが入ったはずなので、その実績を踏まえて、今後は本格的にやるぞということになるかもしれません。

堀切川部会長 ナイトツアーのメニューを旅行会社に手をあげさせて、一番ヒットしたところに大賞をあげるというのもよいと思います。時間をつぶすのにどうするかなどを会話している人がけっこういます。牛タン屋の営業時間を案内してくれるような、一步踏み込んだ相談窓口があると良いと思います。その戦略拠点が仙台駅の中に、あまりお金をかけないでできるとよいと思います。

平賀委員 支店長さんたちに対して何か手を打っていますか。東京に戻って、宮城県人会、支店長会をやって、宮城はよかったねと言っているそうです。それなのに、俺たちは力と金があって、やる気になって行ったのに、宮城では何も頼ってくれないとこぼしているそうです。ですから、あの方たちをうまく使えば、金と力があるので、ここでやって欲しいと頼めば、「やらせてもらいます」という会社がたくさんあると言われました。

志子田課長 東京で県人会、支店長会をやっているのですが、もう少し踏み込んでいいのかなということだと思います。

堀切川部会長 第2期みやぎ観光戦略プランのときにも提案したのですが、仙台に2、3年赴任した方に宮城観光大使とか観光戦略大使などを任命して、そういう人に宮城でこんな新しいツアーメニューができましたなどというパンフレットを送ると、勝手に宣伝してくれると思います。そういう人が会社や飲み屋で名刺を配るときに話題になって、今度の研修旅行は宮城にしようなどとなるかもしれません。

それでは、延長させていただきましたが、事務局の方にお返しいたします。

事務局 それでは、事務局からの説明としまして、資料3の今後のスケジュールでございます。

本日は様々な貴重な御意見をいただきましたが、本日の議論を踏まえて、最終案を次回議論いただく予定としております。網掛けしてありますように、11月に改めて部会を開催させていただきたいと思います。日程調整は皆様と相談させていただきたいので、よろしく願います。まだまだ本日は語り尽くせない御意見があるかと思っておりますので、お手元にあります用紙に御意見を記入していただいて、事務局にお寄せさせていただきたいと思っております。御意見を反映させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願います。事務局からは以上です。

犬飼部長 本日は貴重な具体的な御意見をありがとうございました。今回のプランは、プランを作

って、さあ来年度から何をするかというものではなくて、実行性のあるプランを作って来年度早々から、今からでも、できることをやるということで進めたいと思っています。

次回もぜひ具体的な御提案をいただきたいと思います。冒頭に説明いたしましたが、資料の2で、今までいただいた御意見を全部記載させていただいています。できるだけ中に入れ込む方向でやっています。次回にはまた今日の意見を入れてということで進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。今日はありがとうございました。

堀切川部会長

内容の濃い審議ができ、個人的には非常にうれしく思っております。御協力ありがとうございました。

4 閉会

司会

堀切川部会長ありがとうございました。

以上をもちまして、第7回宮城県産業振興審議会商工業部会を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。